共に考える！（地域教育連絡協議会懇談事業・井荻中学校区）

井荻中学校区地域教育連絡協議会（以下、「地教連」という。）では、「『生きる力を育む地域～輪から環へ～』～地域で考えるこれからのつながり～」をテーマにしています。井荻中学校区域における教育機能を高め、子どもたちの生活を豊かにし「生きる力」を育む環境づくりを目指すために井荻中学校全校生徒と共に「杉並区教育ビジョン2022」について考え、理解を深めることを目的として本会を設定しました。

教育振興基本計画審議会会長としてビジョン策定にかかわられた東京大学大学院教育学研究科教授の牧野先生を招き、子どもも大人も、共に「みんなのしあわせを創る杉並の教育」を実践していくために必要なことは何なのか、について考えました。

【第一部】講演会の様子

井荻中生と地教連のメンバー対象の講演会では、「ことばは誰のもの？」や「生まれるって受動？能動？」といった牧野先生からの問いかけに対し、じっくり考える時間となりました。

「他者のことを考える」ことや「人と接することで自分を知る」こと、「よいことも悪いことも自分と周りが関わり合って起こる」ことなど、人は一人で生きているわけではないことを改めて感じることができました。みんなのしあわせを創るために、ことばを使って表現したり、知識を共有したりすることが大切なのだと思いました。

【第二部】　地教連懇談

「つながらない」、「集えない」はコロナ禍だから？という投げかけから始まった第二部。牧野先生のお話からは、人は人間関係の中でしか生きられない。とすると、何ができるのかについて考えることが大切であると感じました。「ことば」を使いこなして対話する関係を構築し、新しい価値を創造する。そういった過程で、相互承認をしたり社会への信頼感を得たりして、個々が主体的に関わる動機付けをすることが求められているのではないでしょうか。

↓左：四宮小　浮ケ谷校長　右：桃井第一小　高橋校長

キーワードは「対話」。地域の方とコミュニケーションをとりながら、子どもたちのために共に考えていきたい。より一層子どもとの対話を大切にしたい。

これからの子どもは、自分の進むべきレールを自分で敷く力を育む必要がある。そのために、学校は子どもの学びの心に火をつけられるようにしたい。

参加者の感想

一方通行ではなく、一人ひとりが当事者として、みんなのしあわせを創る教育にどう関わるべきか考えた。

子どものやりたいことを実現する場として、児童館をもっと生かしていきたいと思う。

子どもたちが自分の人生をつくれるよう、たくさん対話をして関係性を築いていきたい。

子育てを終え、次の人生を模索する時期にきている自分自身に、希望をもつことができた。

共生していく力、自分で道を切り拓く力が、子どもにも大人にも求められていると思った。